

5 . ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。

彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといた。

6 . ふたりとも、神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落ち度なく踏み行っていた。

**hsan** de. dikaioi anfofteroi enantion tou/ qeou(

Impf. all 目の前に、さばきの前に

**poreuomenoi** en pasaij taij entolaij kai. dikaiwmasin tou/ kuriou anemptoiÅ

pt. OT law commandment, precept, ordinance blameless, faultless,

7 . エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。

8 . さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司のつとめをしていたが、

9 . 祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。

10 . 彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。

11 . ところが、主の使いが彼に現れて、香壇の右に立った。

12 . これを見たザカリヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、

kai. **etaracqh** Zacariaj idwn kai. foboj **epepesen** epVautonÅ

aor.pass. 見返 取返は お惑ひ かぜは 心騒す aor. -の上に落ちてくる

13 . 御使いは彼に言った。

「怖がることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。

**eipen** de. proj auton o` aggeloj(

**Mh. fobou**( Zacaria( dioti **eishkousqh** h` dehsij sou(

aor. pass. listen plea, entreaty; as addressed to God prayer, request, petition.

あなたの妻エリサベツは男の子を生みます。 名をヨハネとつけなさい。

kai. h` gunh, sou Elisabet **gemhsei** (fu.) uiòn soi kai. **kalesei** (fu.) to. onoma autou/ VwannahÅ

14 . その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

kai. **estai** cara, soi kai. agalliasij kai. polloi. epi. th/ genesei autou/ **carhsontai**Å

fu. 飛び上がるほどの大きな喜び fu.

15 . 彼は主の御前にすぐれた者となるからです。

彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、

まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ

16 . そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせませす。

**estai** gar megaj enwpion IthouD kuriou(

kai. oiñon kai. sikera **ouvnh. pih**(

ワイン 強い酒 aor.

kai. pneumatoy agiou **plhsqhsetai** (fu.pass.) eti ek koiliaj mhtroj autou(

kai. pollouj twñ uiwñ Vsrahl **epistrevei** epi. kurion ton qeon autwhÅ

inf.aor. change one's ways, repent come to believe again in, turn back to, return to  
turn, bring back, cause to change

17 . 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、  
父たちの心を子どもたちに向けさせ、  
逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

kai. autoj **proleusetai** enwpion autou/en pneumatj kai. dunamei Wliou(

fu. go ahead

**epistreyai** kardiaj paterwn epi. tekna

inf.aor.

kai. apeiqeij en fronthsei dikaiwn(

逆らう者たち (1) way of thinking, wisdom, outlook (LU 1.17);

(2) intelligence, understanding (EP 1.8).

**etoinasai** kuriw| laon **kateskeuasnenon**Å

inf.aor. prepare, make ready

pt.pf.pass. (1) prepare, make ready, put in readiness (MK 1.2); 準備する、整える

mental and spiritual readiness prepare; pass. be prepared (LU 1.17);

(2) build, construct, erect (HE 11.7); (3) furnish, equip (HE 9.2). 建てる、設ける、造る

18 . そこで、ザカリヤは御使いに言った。

「私は何によってそれを知ることができでしょうか。

私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」

Kai. eipen Zacariaj proj ton aggelon(

Kata. ti, **gnwsomi** toutoÈ

fu.

egw. gar **eini** presbuthj

kai. h`gunh, mou **probekuiã** en taij himeraij authjÅ

pt.pf. **probainw** 前進する、なお行く、(年を)取る、

go forward, advance, go on (MT 4.21)

be advanced in days, i.e. be very old (LU 1.7).

19 . 御使いは答えて言った。

「私は神の御前に立つガブリエルです。

あなたに話しをし、この喜びのおとずれを伝えるように遣わされているのです。

20 . ですから、見なさい。

これらのことが起こる日までは、あなたは、おしになって、ものが言えなくなります。

私のことばを信じなかったからです。

私のことばは、その時が来れば実現します。」

21 . 人々はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇どるので不思議に思った。

22 . やがて彼は出て来たが、人々に合図を続けるだけで、おしのみであった。

23 . やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰った。

24 . その後、妻エリサベツはみごもり、五ヶ月の間引きこもって、こう言った。

25 . 「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけて、今、私をこのようにしてくださいました。」

## 説教

これはバプテスマのヨハネの誕生を予告した天使のことばです。

バプテスマのヨハネと言えば、

イエスさまより半年早く生まれ、荒野で預言活動をなした後、

イエスさまに洗礼を授けて、ヘロデにより処刑されて殉教した人物です。

イエスさまは言われました。

**「まことに、あなたがたに告げます。**

**女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。」**（マタイ 11：11）

いったい、どうしてバプテスマのヨハネは史上最高の人物と言われたのでしょうか。

このことを整理しておくことは、

私たちがこれまで学んできた、聖書的な子育てを考える上でも重要な資料となることすし、

同時に、私たち自身がどのような人間となることを目標とするかを考える上でも重要な資料となることすし、

いずれにせよ、

イエスさまの目にはどのような人間が最高の人物と見えたか、

イエスさまが最高の人物と評される人物とはどのような人であったか、

田茂木野

バプテスマのヨハネの生涯は私たちにこの重要な事実を教えてくれるものです。

それでは、どうしてイエスさまはバプテスマのヨハネを史上最高の人物と評されたのでしょうか。

その理由は、およそ二つ考えられると思います。

すなわち、バプテスマのヨハネが、

最高の「使命」を神さまから受けたからであり、

神さまからいただいた最高の「能力」をもって最高の「働き」をなしたからです。

これらにより、バプテスマのヨハネは

**「女から生まれた者の中で、**

**バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。」**と史上最高の人物とイエスさまに絶賛されたと考えられます。

まず、

**バプテスマのヨハネは最高の「使命」を神さまからいただきました。**

バプテスマのヨハネは、神さまから史上最高の「使命」をいただいたから、史上最高の人物と評されました。

神さまからいただいた史上最高の「使命」とは何でしょうか。

それは「**エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、...**

**逆らう者を義人の心に立ち帰らせ、**

**整えられた民を主のために用意する」**ことです。

「エリヤの霊と力で主の前ぶれをして、

神さまに逆らう人々を悔い改めさせて、

整えられた民を主のために用意して、イエスさまが来られる道備えをする」ことです。

いきなりイエスさまが来られて救いの道を説いても、それを人々が受け入れなければ滅びる以外にありません。

それで、マラキ書の表現を借りて言えば、「**神さまが来て、呪いでこの地を打ち滅ぼさないため**」に、

イエスさまが来られる道備えをするということが「主の前ぶれ」をするバプテスマのヨハネの使命でありました。

すなわち、ヨハネ自身が人を救うのではなく、イエスさまが人々を救われるための「道備えをする」ということです。

エリヤといえば旧約聖書最大の預言者です。

生きたまま火の戦車に乗って天に挙げられた伝説の人物です。

そして、エリヤが成した一大事業といえば、

イスラエル国中に一大リバイバルの嵐を巻き起こしたことです。

当時は、国中が偶像崇拜に耽っていた、最暗黒のアハブ王朝時代でした。

たとえ国が危機に見舞われても、きちんと神さまの前に罪を悔い改めていれば望みがあります。

すなわち、滅びから神さまが回復してくださるという望みです。

でも、国中が罪に耽っている状態では希望がありません。

なぜなら、神さまのさばきが迫っているからです。

滅びるしかありません。

エリヤの時代はそういう時代でした。

僅かな人々を残して、イスラエルの国中がこぞって神さまに背き、偶像崇拜に耽っていたのです。

その靈的に最も暗黒の時代に、神さまは大預言者エリヤを遣わされました。

イスラエルの靈的な指導者は、本来国王と祭司です。

彼らが国民に神の栄光をあらわして、まことの神を礼拝することを指導する責任があります。

でも、それなのに、

国王は外国の神々を次々に導入し、祭司は追いやられて偶像宗教の祭司に取って代わって、全く神の栄光をあらわしません。

そのような時に、神さまは預言者を起こして彼らに遣わしました。

すなわち、イスラエルの宗教が全く機能しなくなった時に、

神さまは預言者エリヤを遣わして、彼を通してイスラエルにご自身の栄光をあらわさせ、宗教改革なされたのでした。

エリヤは、

三年にもわたって雨を止めて飢饉を起し、

カルメル山頂で、天から火を呼び下して、

バアルとアシェラの預言者合わせて850人を皆殺しにし、

少しも臆することなく王に対して堂々と罪の悔い改めを迫ります。

これほどの大規模な宗教改革は他に類を見ないほどです。

これが預言者エリヤでした。

そして、イスラエルの人々は、このエリヤの到来こそが輝かしいメシヤの時代の幕開けだと考えて期待しておりました。

旧約最後の預言者マラキは、その預言の最後にこう締めくくっています。

**「あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を記憶せよ。**

**それは、ホレブで、イスラエル全体のために、わたしが彼に命じたおきてと定めである。**

**見よ！**

**わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。**

**彼は父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。**

**それは、わたしが来て、呪いでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」**（マラキ 4:5,6）

そして、この預言者エリヤの使命を帯びて誕生する人物こそが、バプテスマのヨハネでありました。

バプテスマのヨハネは、エリヤの霊と力で主の前ぶれをする最高の「使命」を神さまから受けたことで、

イエスさまから「女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。」と言われました。

史上最高の人物を評されたのです。

このことは、私たちにとっても大切な教訓となることです。

すなわち、

人々に、罪を悔い改めてイエスさまを信じるよう宣教する使命は、イエスさまの目には何より尊い最高の使命なのです。

私たちは、人生の目的は何だろうかとあれこれ考えます。

何をなすことが最もすばらしいことだろうかと考えます。

人生最高の使命は何かと考えます。

でも、イエスさまの目には、それははっきりしていました。

人間にとって最高の使命は、福音を宣べ伝えることです。

人々に、罪を悔い改めて、イエスさまを信じるよう、勤めることです。

私たちは、人を救うことはできません。

でも、イエスさまにはおできになります。

人を救うことができます。

それで、人々がイエスさまを信じるよう道を備えることが、私たちの務めです。

そして、そのようにイエスさまが来られる「道備え」をすることは、

考えてみれば、確かに私たちのないうる最高の働きと言えるかも知れません。

だから、みなさん、このことを心に銘記しましょう。

人生最高の使命は、福音宣教です。

福音を宣べ伝えることが最高の人生です。

ある人が言いました。

「この世での仕事はあくまで仮の仕事であって、自分にとっての天職は伝道だ。」

使徒パウロにとって「天幕づくり」は自分が生活していくための職業であり、彼にとっての天職は福音宣教でありました。

彼はパリサイ人です。

パリサイ人は本来普通の信徒です。

職業としての宗教家は別におりました。

それは神殿祭司です。

パリサイ人は普通の信徒として、レイマンとして普通に生活しながら、しかし宗教に熱心でありました。

だから、パウロにとっても、

普通にこの世で職業人として生活しながら福音宣教の働きをするということは、もともと当たり前のことでした。

中世の時代は、福音宣教こそが「聖なる聖職」であって、金儲けの世俗の職業は「汚れた俗なる職業」と考えられました。

それが、16世紀の宗教改革の「職業召命観」によって、

一般の世俗の職業も汚れたものではなく、

むしろ世俗の職業も神さまが与えてくださった聖い職業であり、

その俗なる職業を通して神の栄光をあらわすことができることが確認されました。

でも、確かにそうですが、だからといって、福音を宣べ伝えなくていいわけではありません。

むしろ、「万人祭司論」によって、いかなる職業の者も「祭司」であることが確認されたのですから、どんな職業の人も、牧師、宣教師並みの献身をして、牧師、宣教師並みに福音を宣べ伝えるべきなんです。つまり、イエスさまのみことば通り、福音宣教は私たちがなしうる、そしてなすべき最高の「使命」なのです。どうしてイエスさまはバプテスマのヨハネを史上最高の人物と評されたのか、その二番目に考えられる理由は

**バプテスマのヨハネは最高の能力を神さまからいただいて、最高の働きをなしたからです。**

最高の能力とは何でしょうか。

それは「エリヤの霊と力」です。

「エリヤの霊と力」とは何でしょうか。

それは、要するに、人を恐れることなく神のことばを妥協なくまっすぐに語ることです。

エリヤはたとえ一国の王に対しても神のことばを曲げることなくまっすぐに語りました。

地上の権力者から命を狙われても怯むことなく神のことばを語り続けたのです。

同じように、バプテスマのヨハネも妥協なく神のことばを語りました。

相手が誰であろうと人の顔色を見ずに語りました。

相手が民衆であろうと、パリサイ人であろうと、国王であろうと、命の危険を顧みず、殺されることを覚悟で語りました。

そして、最後はとうとうヘロデ王に殺されて殉教します。

ヨハネがこの地上に於いてなそうとしたことは、

人々に神のことばを妥協なく語って人々を悔い改めさせ、

神のことばによって国家を改革して、キリストの王国による支配をこの地上にもたらすことでありました。

「主よ。来たりませ。」と、主の道を用意することにあつたのです。

そして、このバプテスマのヨハネの業績をもって、

イエスさまは史上最高の業績を残した人物として高く評価し、

「女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。」と言われたのでした。

このこともまた私たちに貴重な教訓となることです。

すなわち、イエスさまの目に最高の能力とは、

妥協なく神のことばを語りみこころをなす能力であり、

同じようにイエスさまの目に私たちがこの地上でなし得る最高の功績は、

私たちが神さまのみこころを行ってこの地上に神の国をもたらすことである、ということです。

イエスさまが来られる道備えをすることが私たち人間のなしうる最高の功績です。

たとえ人目には無惨に殺されて処刑されたとしても、イエスさまの目には最高の人物と評価される人生なのです。

最後に私たちが確認したいことは

このような史上最高の人物と評されたバプテスマのヨハネを、神さまはどのような夫婦に託されたのかということです。

史上最高の息子となるバプテスマのヨハネの親として神さまに選ばれた夫婦は誰でしょうか。

それが、祭司ザカリヤと妻エリサベツでした。

**5. ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。**

**彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといた。**

ふたりとも祭司の階級に属していましたが、ザカリヤは「アビヤの組」に、エリサベツは「アロンの子孫」でした。

彼らは、人間的に見ると、

子どものいない、「年寄り」の、「ふたりとももう年をとっていた」、望みなき老夫婦でありました。

しかし、「神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落ち度なく踏み行っていた」者たちです。

**6. ふたりとも、神の御前に（目の前に、さばきの前に）（すべて）正しく、**

**主のすべての戒めと定めを落ち度なく（責められることなく、非難されるところなく）踏み行っていた。**

**7. エリサベツは不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。**

はっきりしたことは言えませんが、「年をとっていた」と言っても、

律法によれば祭司の定年は数えて五十才とあるので、おそらく四十代後半であったのではないかと思います。

更年期を経て年をとり、子どもが産めなくなってもまだ子どもができません。

でも、そうではあっても、

彼らはそれで神さまへの信仰を失うことなく、むしろ

**「ふたりとも、神の御前に（目の前に、さばきの前に）（すべて）正しく、**

**主のすべての戒めと定めを落ち度なく（責められることなく、非難されるところなく）踏み行っていた」と言うのでした。**

当時は暗い時代です。

民族の独立を、ローマ帝国の傀儡政権エドム人ヘロデに奪われていました。

華美なヘレニズム・ローマ文化が栄え、

エルサレム神殿の再建が進められるなど、派手な土木建築で外見的には繁栄を見せてはありましたが、霊的には最悪でした。

人々に神の道を教えるべき祭司階級は、

権力にへつらって言うべきことも言えず、

大祭司職が金で売り買いされるなど腐敗が蔓延って墮落し、

祭司でありながら、聖書の大切な教理である死人の復活も信じることがないなど、その信仰も極めて形骸化しておりました。

服装・身なりは神さまに仕える立派な祭司としての装束を身に纏ってはありますが、しかし中身は全くの世俗そのものでした。

でも、そのような中でも、

このザカリヤとエリサベツは、

**「神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落ち度なく踏み行っていた」のでした。**

これはとても重要な点だと思います。

彼らは、世の中の墮落に左右されずに、自分の生き方を貫いておりました。

すなわち、世の中がどんなに墮落しても、

あるいは、自分たちの属する祭司階級がどんなに墮落していたとしても、

自分たち夫婦は**「神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めを落ち度なく踏み行っていた」**のです。

そのような夫婦を神さまは特別に選ばれました。

そして、バプテスマのヨハネの両親にしたのです。

バプテスマのヨハネは、このような両親のもとに生まれ、このような両親のもとで育てられ、「エリヤ」となったのです。国家を改革する者となりました。

人々にキリストの救いをもたらす者となったのです。

そして、このことがザカリヤの長年の祈りでありました。

天使は言いました。

13. 御使いは彼に言った。

「怖がることはない。ザカリヤ。

**あなたの願いが聞かれたのです。** ~つまり、夫婦でずっと祈っていた。

あなたの妻エリサベツは男の子を生まます。

名をヨハネとつけなさい。 : 「主は恵み深い」という意味で、主の恵みの新時代の幕開けを告げる先駆者にふさわしい名。

14. その子はあなたにとって喜びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

15. (というのは、)彼は主の御前にすぐれた者となるからです。

彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、

16. そして、イスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。

17. 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、 = 「彼の御前に先立って行くだろう」直訳

父たちの心を子どもたちに向けさせ、

逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。」

この聞かれたザカリヤの「願い」とは、

彼は 自分に子どもが与えられるようにということと、

救い主がイスラエルに救いをもたらし、

イスラエルが世界の祝福の基となって神の栄光をあらわすようにということです。

これは後に68節以降の「ザカリヤの讃歌」「ザカリヤの頌」「ベネディクトゥス」を読めばよくわかります。

驚くべき事は、神さまが、彼のこれら二つの願いを、何と同時に聞いて下さったということです。

すなわち、自分の子どもが生まれるということと、

イスラエル国家が神の栄光をあらわす国家へと改革されるということの二つです。

これら二つのザカリヤの祈りが同時に聞かれたのです。

どのようにして聞かれたのでしょうか。

それは、実に、自分の子どもが、イスラエル国家の改革に大きな役割を果たすということに於いてであります。

ですから、神さまは、ザカリヤの思いをはるかに超えた形で、彼の祈りに応えられたこととなります。

それは、ザカリヤの考えた通りには祈りが聞かれませんでした、

でも、ザカリヤが神さまに捧げた祈りは一つも地に落ちることなく、そのすべてがことごとく聞かれたのです。

これは何という祝福でしょうか。

**ザカリヤ**という名は「主は覚えたもう」、

**エリサベツ**という名は「我が神は誓い」という意味です。

それは、「主は我らの父祖たちに憐れみを施し誓い、

その聖なる契約、我らの父アブラハムに誓われた『誓い』を『覚えて』、我らを敵の手から救い出し、」(72-73節)

こうザカリヤ自身がうたった通りです。

彼らは、これまで、どんなに祈っても、自分たちの名前の通りになかなか祈りが聞かれないと思っていたかも知れません。でも、ヨハネが生まれた時このように喜びうたいました。

それは、何より、神さまの摂理によって自分たちにつけられた名前の意味を、味わい深く実感したからであります。

ともあれ、私たちは、

エリヤの霊と力を帯びた（神のことばを忌憚なく、大胆に宣べ伝えた）

バプテスマのヨハネこそが、新しい救い主の時代の到来をもたらしたということを記憶しましょう。

私たちは、

愛あふれる優しい子どもに育てほしいという親の期待で、

自分の子どもに「優子ちゃん」とか、「愛ちゃん」と名付けたりします。

それはそれでとてもすばらしいことだと思います。

でも、それと同時に、

自分の子どもが「正義」を行い、「正義」を宣べ伝え、

「罪の悔い改め」を宣教することを期待するということも重要なのではないのでしょうか。

バプテスマのヨハネのように、

たとえどんな状況にあっても、

（不正、邪悪に満ちた現実）にあっても、

そして、誰に対しても（権力者に対しても）、

少しも臆することなく、

いのちを賭けて、

たとえ自分のいのちを落とすことがあったとしても、

「間違っていることは間違っている！」と、正義を宣べ伝えて、罪の悔い改めを迫る、

こういう人物だけが、真に新しい時代を造りだしていくことができるのではないのでしょうか。

このような人物だけが、救い主の到来をもたらしていけるのです。

バプテスマのヨハネのような人物こそが、真に時代の先駆者になれるのです。

強い者にはへつらい、長いものには巻かれよで、

人を恐れ、人の顔色を窺ってばかりいるコウモリ人間は、

ただいつも流行を追っかけて行くだけで、時代の先駆者になれるはずがありません！

この世は馴れ合いばかりです。

私たちの住むこの世界を見渡す時、人間たちは自分たちだけの世界ですべてを決めて生活しています。

みんな馴れ合いです。

そうして、罪を犯し、罪に耽り、偶像礼拝、姦淫、盗み、酒飲み、人を殺して、自らにも自業自得で災いを招いています。

民主主義の原理は多数決です。

それは人間ひとりの独裁を牽制するという点では意味があるかもしれません。

でも、だからといって、民主主義が常に正しいとは限りません。

拳国一致体制で国民全員が不法な戦争に賛成するという誤った過去の事例は数知れません。

アメリカは、「民主主義」という大義名分の下、  
十字軍さながらに自分たちの戦争を聖戦と絶対視しながらこれまで戦争してきました。

「赤信号、みんなで渡れば恐くない。」

これが民主主義の弊害です。

全員が賛成すれば、犯罪をさばく者が誰もいなくなります。

そして、それに反対する者は村八分にされて社会から抹殺されるのです。

人間たちが、馴れ合いで、自分勝手に生きている、そして神に背き、罪に耽って生きている、

このような馴れ合いの世相を、神のことばの剣で快刀乱麻の如く叩斬る、これがまさに「時代の先駆者」です。

「罪を悔い改めよ！」

「偶像崇拜してはならない！」

「姦淫してはならない！」

「殺してはならない！」

勇気をもってこう語る者が、新しい時代を切り開くパイオニアとなるのです。

キリストの王国を地上にもたらしていくことになるのです。

バプテスマのヨハネは、そうやって救い主の到来に道を備えました。

妥協なく神のことばを伝えました。

我々人間の責任は宣教することです。

主の来られる備えをすることです。

そして、このような歴史を新しく造りかえるために神さまが用いた人物が、

「神の御前に正しく、

主のすべての戒めと定めを落ち度なく踏み行っていた」ザカリヤ夫婦から生まれ出たことを記憶しましょう。

赤羽聖書教会が、

この世に向かって神のことばをまっすぐに宣べ伝えて主の到来に道を備え、

自らも神の御前に正しく、主のすべての戒めと定めとをしっかり守って、

この罪の歴史を全く新しく造りかえていく人物を次々と生み出して世に輩出していく教会となるよう、祈ります。

そして、ここに集うみなさん一人一人が、

一人のザカリヤとなり、エリサベツとなって、

あるいは、ヨハネとなって、

家庭や学校、職場にキリストの来られる道ぞなえをなしていられるよう、イエスキリストの御名により祈ります。